

え

る

の

あ

目次

女性プラザ祭2012講演会の報告…… 1      インフォメーション……… 4  
 女性プラザ祭2012レポート……… 2・3

女性プラザ祭2012講演会の報告

私が見た北海道の元気、町と食の活性化 ~魅力ある食のづくり手で北海道の未来は元気に~

フリーアナウンサー/タスクオフィス祐 代表 安達 祐子 さん



昨年11月開催の女性プラザ祭2012講演会ではフリーアナウンサーの安達祐子さんから、テレビのグルメリポーターとして16年間で道内外4,000件の取材から見た北海道の魅力ある町や食についてお話していただきました。

講演では初めに、農業国フランスの「味の景勝地SRG」という取組を紹介。これは良質な食、食の生産・加工等に関連する景観・遺産建造物、これらを守る人の各要素が備わった地域を認証し、一体的・複合的に活用することにより、地域全体のイメージアップを図り、地域製品の付加価値向上、国内外の観光客の増大と、地域の活性化につなげているもので、私たちが住んでいる北海道にも味・景観・もてなしの整っている地域がたくさんあると。

また、生産が1次産業、加工が2次産業、流通が3次産業で、この1と2と3を足して6次産業とし、生産から加工そして流通まで全部を自分たちでやろうという、最近北海道で増えている生産者の取組を紹介されました。

「北海道のワインといえば、1963年の池田ワインから始まり、歴史はまだ50年です。私は道産ワインの広

援をしています、ワインを作る方には非常に魅力的な方が多く、余市町のドメーヌタカヒコさんもその中の一人。ブドウの管理から瓶詰めまで全部一人でやっています。どうして一人で作るのかを尋ねると、「絵を描くのには3人で描く人はいない。僕にとってワインは芸術品、全部一人でやりたい。今美味しくなくてもいい、50年後に美味しければいい。子どもの代に残したい」という言葉から、北海道のワインの歴史の第一歩を踏み出している自負が伺えました。」とお話され、参加者は興味深いお話に引き込まれていました。

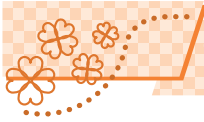
今回のプラザ祭では、女性農業者グループのご協力で、地元食材を使ったジャムやチーズ、乾燥野菜などの即売会を行ないましたが、生産者が心を込めつくった加工品は、市販されている物より少し高めでも、美味しく安心安全。これらを購入し、北海道をもっと元気に、応援するのは私たち消費者の役割かもしれません。



即売会の様子

発行 / 北海道立女性プラザ (指定管理者: 公益財団法人北海道女性協会)  
 〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる2・7 6階 (011)251-6329・6349  
 【ホームページアドレス】 <http://www.l-north.jp/>

(休館日: 日曜・祝日・年末年始) (開館時間: 月~金9:00~21:00, 土9:00~17:00) \*お問い合わせは9:00~17:00をお願いします。



# 女性プラザ祭2012レポート

## 北海道・食・元気！

開館記念事業「女性プラザ祭2012」は昨年11月12～17日の期間、オープニングコンサートから、DVD上映会・講演会・ライフセミナー（行動する女性のネットワーク主催）・女性セミナー（北海道女性団体連絡協議会主催）・パネル展・お茶会・バザー・即売会など盛りだくさんの内容でした。

このプラザ祭は、道内の男女平等参画推進団体の協力や参加で開催されていますが、15日のメイン事業のテーマは「北海道・食・元気！」これは、昨年の東日本大震災から一日も早く立ち直りたいという願いを込め、北海道の食にこだわって、元気で楽しい一日を過ごすことをねらいにしました。

その中から、これからますます期待されている、女性の力を経済や地域活性につなぐ事例として喜茂別で起業された橋口さんと、幸せな食卓についていっしょに考える大熊さんのワークショップを「女も男もワイワイセッション」からご紹介させていただきます。

## 女も男もワイワイセッション

株式会社トラヴェシア

代表取締役 橋口とも子さん



私は平成22年6月に喜茂別の地域おこし協力隊として1年10ヶ月の活動をし、今年3月に株式会社トラヴェシアを設立しました。

地域おこし協力隊というのは、総務省の事業で地域に若者を招き地域おこしをするものです。活動は大きく2つあり基本活動と地域おこし活動。基本活動は、若者がいなくて開催が困難になっていた神社祭りや葬儀のお手伝い、不法投棄の見回りやゴミ集め、そして高齢者の送迎や、除雪、草刈り、薪割り、そして私たちのアイデアでお茶会などを行いました。地域おこし活動では、協力隊は卒業後にこの地域で就業するか起業する事が約束になっていて、私は初めから起業したいと考えていたのでそのための活動を始めました。

私が考えた商品のポイントは、まず自分が食べたいもの、食で起業したい。地元でできる物で作りたい。それと加工のための設備投資の資金はないので、自分がキッチンでつくれるような商品という制約を考えながら商品を開発することになりました。

地元の特産品を使おうと思ったのですが、既存の農家に新参者が入っていくのは思いのほか難しく、今まで誰も使っていないソバを考えました。ソバは荒れた土地でも育ち、栄養価が高く、生活習慣病の予防やアンチエイジング効果があります。ゆでてつぶすと挽肉のようになるため、一番初めに開発したのはハンバーグ状のソバーグ。これはあまり評判が良くなくて、ではミートソースや、スープにしてはどうだろうと考えました。喜茂別には桃太郎というトマトがあるのですが、生食用でソースにしても色が美しくなさそうになってしまいます。そこで調理用トマトと出会います。加工用トマトを北海道で栽培できるように改良し、農家の負担を減らす品種改良をされている先生との出会いがあって、実際に栽培してみると、このトマトは地這いで育てるため、支柱を立てる手間や脇芽を取る手

間が省けます。ソースにしてみると味がぐんと良くなり、瓶詰めすると、赤く美味しそうに見えました。このトマトを高齢で農家をリタイアした方や家庭菜園でトマトを作る方から、買い取ることができたら、私の事業もなんとか成り立つのではないかと考えました。

最終的にソバの実のトマトソース「トマトカーシャ」という商品ができました。社名のトラヴェシアというのはポルトガル語で「架け橋」とか「つながりを作る」という意味で、地域の人たち、個人個人の力をつないで一つのことのできたらいいなという思いを込めています。

それで現在なのですが、3月から会社を興し、観光客を当てにしていたゴールデンウィーク、中山峠が大雨で通行止めになり、喜茂別はゴーストタウンと化しほとんど売れませんでした。3軒の農家と2軒の一般のお宅でトマトを作っていたら700キロくらいの収穫がありましたが、アルバイト賃を払えるほどの稼ぎがないので、私一人で作って、かなり腐らせてしまいました。商売の難しさを感じていますが、今はこれからどうやって進めるべきかを考え、事業計画を進めている状態です。

地域おこし協力隊の経験で、人の役に立つ喜びを体験し、たくさんの地域の方に協力していただいています。お金中心の社会を寂しいと感じていた私にとって価値のある知恵を持った人たちの力が少しずつつながって、小さな仕事を生んで、元気な喜茂別をつくれたらいいなと考えています。

（「トマトカーシャ」は喜茂別町の道の駅で販売、インターネット、電話での注文で入手できます）





## NPO法人北海道食の自給ネットワーク

事務局長 大熊久美子さん



私がこの活動を始めたのは25年前、子育てをしながらの閉塞感の中、社会勉強がしたいお母さんたちと小さなサークルを立ち上げたのがきっかけです。それが私の小さな一歩であり、今に続く一歩でした。14年前にこのNPOを立ち上げて事務局長をしています。このNPOは生産者も流通加工業者も消費者もいる会で様々な食や農についての活動をしています。

皆さん孤個食というのをご存じですか？一人で食べる食事や家族が一緒にいても別々の物を食べる食事です。最近よく見られるのが、家庭内バイキング。それはスーパーやデパ地下で買ったものを並べ、各自好きな物を食べる。こういう簡単便利、家で食事を作らない食の形態が広がっています。

こうした中で、食べる物にはある傾向が見られます。揚げ物、肉、炭水化物が多く、加工食品に含まれる大量の食品添加物も取り続けている。逆に若い世代が食べないのは魚、野菜。脂肪と糖質が多く、ビタミン、ミネラル、カルシウム、食物繊維は少ない。

このような食の傾向は様々な心身の健康問題につながっています。生活習慣病、アレルギー、味覚の未発達。今のお父さんお母さんたちは一度作って子どもが食べないものは二度と出さない。好き嫌いは治らず味覚が未発達のまま大人になる人が増えています。腐ると酸っぱい味や苦い味がしますが、味覚が発達していないので、わからず食べてしまう。味覚を発達させることは食を楽しむだけでなく、自分の身を守る重要な能力、大人の責任で子どもに教えなければいけないと思います。その他骨粗鬆症、便秘、サプリメントへの過信。

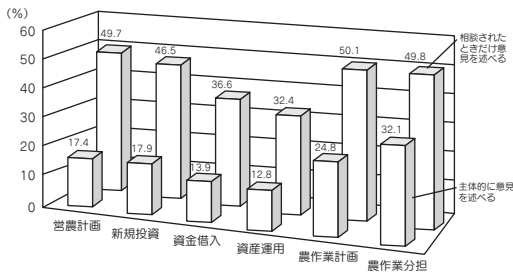
噛まないことから、唾液が出ないドライマウスや内臓も機能しない、脳も活性化しない。骨格不全や頭痛、腰痛、肩こりの原因とも言われています。

私たちは毎年食育講座を行っていますが、参加する小学生を見てみると、簡単便利は生活能力を奪うと感じます。包丁にさわったことがない。火の怖さが分からない。この講座では、栄養士さんのお話を聞いたり、漁師さんに来ていただいて魚と一緒におろしたり、農家を訪ね、鶏が抱いているまだ暖かい卵やそこで育てた鶏の肉や自分で収穫した野菜で食事を作り、食器洗いをさせます。台所に興味を持つ小学生くらいは、足手まといで「それより勉強しなさい」と手伝わせることなく、興味を持った時期を過ぎてしまう。それで食器を洗う概念すらない、茶碗を持って食べない、箸の持ち方を知らない子になるわけで、孤個食ですから親が食べ方を教える場面も無いわけです。

豊かな食と幸せな食卓については、人それぞれ価値観が違いますが、でも食べていて幸せと思う何かがあるんですね。毎年実施している女子短大生のアンケートから紹介しますと「あなたがこれまでの人生で一番心に残っている幸せな食事は何ですか？」という質問に共通なのは、ものすごい馳走ではないこと。「今札幌に出てきて一人暮らしです。一番心に残っている幸せな食事の風景を思い出したら、ごく普通のお母さんが作る食事でした。」「ちらし寿司。私の受験や学校祭の時とかに、お母さんが作ったちらし寿司には、お母さんの頑張ったねという思いが入っていたから。」と書いていました。ごく普通の何気ない、でも絶対的に違うのはコンビニから買った物ではないこと。これは決してお母さんだけの問題じゃなく、家族みんなで、子どもそして自分自身のために、ちゃんとした食事を作って欲しいと思います。毎日じゃなくても、生活にあわせて頑張りすぎずに、軸足はきちんと幸せな食卓をつくらうと思うところにおいていただければと思います。

## 北海道の農村女性

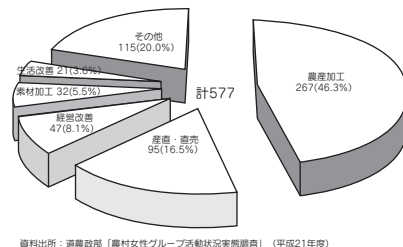
農業経営への参画状況



### 多様な役割を担う女性の活動

北海道の農林水産業を担う女性は、その仕事の他に家事や育児等を受け持ち、さらに地域活動にも積極的に参加するなど、重要な役割を果たしています。道内の農山漁村で、学習活動や地域活動に取り組んでいる女性グループは577あり、味噌、ジャムなどの農産加工が46.3%、朝市、産直等が16.5%、簿記等の経営改善活動が8.1%、ドライフラワー等の素材加工が5.5%などとなっており、その活動は多岐にわたっています。

農村女性等グループの活動状況



農村の女性グループや個人による産直、ファームイン、レストラン経営、加工食品やクラフトの製造・販売等の起業化の取組は年々増加しており、こうした活動は、女性が収入を得、経済的な基盤が形成されるといった効果のほか、安全で安心なフードシステムづくりを進め、地域の独自の食文化を育て継承していく上で、また農業者と消費者との交流によって農村の活性化を図る上で、その役割が目まぐるしく注目されています。（「データでみる北海道の男女平等参画2012」より）

# インフォメーション

## 情報提供フロアより

女性プラザで所蔵している、他のDVD・ビデオ、及び新着図書については、当プラザのホームページで確認できます。  
利用方法についても掲載しておりますので、ご活用ください。

## 新着DVDソフトのご紹介

番号	タイトル	時間
D-38	八十七歳の青春 市川房枝生涯を語る	121分
D-39	冒険遊び場20年	25分

## ピックアップ書籍

### 平成24年度新着図書は189冊



男性介護者100万人への  
メッセージ 男性介護体験記 第3集  
男性介護者と支援者の  
全国ネットワーク編集  
(第1集、第2集も所蔵しています)

これならわかる  
(スッキリ図解)  
介護保険  
高野龍昭 著  
翔泳社



男も出番!  
介護が変わる  
羽成幸子 著  
春秋社



介護のえほん  
だいじょうぶだよ、おばあちゃん  
福島利行(文)、塚本やすし(絵)  
講談社

## 女性のSOS相談電話

ほっとらいん ぶ〜け  
女性のための女性弁護士による  
無料電話法律相談 (20分程度)

050-3369-0550  
月・水・金 16:00~19:00  
火・木 12:00~15:00  
土日祝日、12/28~1/5、お盆期間を除く  
(札幌弁護士会)

女性プラザでは女性のための法律相談を面談で実施しています。(予約制)  
詳細については、お電話でお問い合わせください。

- 「えるのす」「道立女性プラザ」に対するご意見、ご感想、ご要望などをお寄せください。
- 「えるのす」は女性(Lady)の頭文字と北(North)の造語です。

## ケアメン入門講座

日時 平成25年3月30日(土)  
13:30~15:40

会場 かでる2・7  
(札幌市中央区北2条西7丁目)  
6階 北海道立女性プラザ/学習室

### ● 福祉用具の展示・紹介

介護する人・される人にも、やさしい最新の福祉用具に実際に触ってみて、使ってみてください。

### ● 男性介護の現状と介護保険制度について

講師：さっぽろ社会福祉士事務所  
代表 大島康雄 さん  
(社会福祉士・精神保健福祉士)

### ● 福祉用具を使った簡単介護実技講習

講師：キタライフ  
代表 鈴木英樹 さん  
(理学療法士・介護支援専門員)

参加料 無料

定員 30名

パートナーの方との  
参加も可

受付開始 2月4日(月)から  
011-251-6345  
女性プラザ窓口でも受付します。



※詳しくは、チラシかホームページをご覧ください。

ケアメンとは 介男子ともいわれますが、

親や妻などの介護を担う男性のこと。在宅介護者の3人に1人は男性という時代になり、家事や介護は女性のみ役割ではなくなっています。



性暴力被害者支援センター北海道  
SACRACH  
さくらこ

もし性暴力被害にあったら、  
一人で悩まず

できるだけ早く電話をしてください。

サーナヤマな オンナキョウキョウ

Tel. 050-3786-0799

月~金 13:00~20:00 (土日祝祭日、12/29~1/3を除く)  
[NPO法人ゆいネット北海道・北海道・札幌市]